

8%の撮影中近所に住むという老婦人が孫だという幼い女の子を連れて見物に来ていたが、この休耕田についてお尋ねすると沼の1部を水田にして40余年は経過しているという。ガシャモクの種子か地下茎が沼にうずもれながら生きながらえて溝が掘られて復活したわけである。

尚ある文献によればガシャモクは『ササバモの様に陸生型になることはない』とあるが、我孫子市高野山新田の休耕田の中の溝では陸生型があった(写真参照)。亦この文献にガシャモクの写真があって印旛沼での撮影となっているが、6年前に同じ編者による別の出版社から発刊された図鑑では同じ写真に茨城県霞が浦での撮影と

なっている。どちらが正しい産地なのか不思議である。

ともあれ、ガシャモクの出現を報告しておきたい。当標本の同定を賜った角野康郎博士に感謝申しあげる次第である。

このガシャモク自生地に近い場所に公共の掲示板(或いは説明板か?)があつて日本の有名な学者のスケッチを基にパネルに仕上げて動植物を図示してある(昭和30年頃までの手賀沼の生物)。スケッチは仲々のものであるが植物について余り注意を払っていないような気がしてならない。タヌキモ、コオホネ、オモダカ、マコモ等如何でしょう。(1990. 11. 15)

千塚池(福山市)のオニバス 天然記念物指定へ

橋本 卓三

千塚池は現在、広島県でほとんど唯一のオニバス群生地と思われるが、このたび市の天然記念物に指定される運びとなった。これについては福山市文化財保護委員の藤井茂美先生(元、広島大学福山分校主事)に多大の御骨折りを賜り、ここにあつく御礼申し上げるしだいで。

事の経過を述べると、1988年8月から翌年2月にかけて水草研究会の大滝前会長と筆者の間で意見の交換があり、3月21日に藤井氏に面会して「文化財として保存の方向で担当課に働きかける予定」との御返事を頂いた。7月、松江での水草研全国集会の後、大滝前会長と共に31日、千塚池を観察して藤井氏を訪問し、具体的な話の詰めを行なった。その後、文化財審議会にて検討され、地元との意見調整の後90年11月30日に、天然記念物指定の意向が採決されて2月現在、行政側で事務手続きが進行中である。この間、藤井氏との話し合いに当たっては大滝前会長と共に広島大学の関太郎先生に色々と助力して頂いた。78年の同氏による指定申し入れ以来12年にしてようやく実現を見る事が出来、我々としても一安心と言う所である。

天然記念物指定は行政面からの群落保護の一手段であり、今後福山市に於ても共有財産として地元の人々の協力を得て必要な対策を講じて行かれる事と思う。オニバスが生き残るためには人間社会の中にもどの様な協力者が組織されるべきなのか、我々水草研究会の県内会員としても独自の立場から継続的に注目して行きたいと思う。

この種の事については地方特有の気質、意識とか複雑な事情があつてなかなか大変であり、担当行政局の中に興味と熱意を持った特定の人があるかどうかが要点となる。筆者に取っても大変に勉強となった。

「ため池の自然研究会」の紹介

ため池は人里近くにあり、昔から人びとの生活と深くかかわりを持ってきました。農家の集落と水田、ため池、里山が一体となった風景は、私達が心に抱くふるさとの原風景だと思います。しかし、近年、都市周辺では、開発による埋め立てや汚濁で、わが国の文化遺産ともいふべきため池が危機的状態にあります。このようなため池に関心を持ち、そこに生息する生物は勿論、水環境、身近な水辺としての活用法など、広くため池にかかわる分野を科学的に研究調査しようとする人びとの研究会です。年2回会報「ため池の自然」を発刊し、会員相互の情報交換と研究発表の場としています。関心ある方の入会を歓迎しています。

・入会手続き…振込用紙の通信欄に氏名、住所(連絡先)、職業と特に興味ある分野(あれば記入)を記入し、1年分の会費(2,000円)を振込む。

・振込先…郵便振替口座 名古屋5-61818

「ため池の自然研究会」

・事務局…〒457 名古屋市南区忠道1-14

名古屋市公害研究所 村上哲生 受付

「ため池の自然研究会」

(浜島繁隆)